

宇多津町は香川県の中讃地区の中心に位置し、丸亀市と坂出市の間に位置する。宇多津町は、人口約1万9000人で、他の市町が減少傾向の中、町内の人口は増加傾向にあり、直近でも微増している。高齢化率は県内でも最も低い。

### 塩田を復元

宇多津町は、温暖で雨が少なく日照時間が長いという瀬戸内海式気候を利用した人浜式の「塩づくり」が行われて、我が国最大の「塩の町」として栄えた。1980年代以降塩田が埋め立てられて再開発が始まり、その後の瀬戸大橋の開通に合わせ、JR「宇多津」駅舎も予讃線の移設と併せて高架化された。ゴールドタワーなどの観光施設や商業施設が充実し、中高層マンションなどの建設も進み発展



復元された「復元塩田」

した。

この地域は「新宇多津都市

## ～文化的歴史的所産を巡る～ 残したい情景

第39回 香川県 宇多津町



一般財団法人 日本不動産研究所

の街並みが形成されている。ただ、町を支えてきた塩づくりの歴史を後世に伝えたいという町民の願いが、1988（昭和63）年11月に「宇多津町産業資料館」「復元塩田」として実現した。

「宇多津町産業資料館（うたつ海ほたる）」には塩づくりに関する映像展示がされており、「復元塩田」は町民や観光客に昔の塩づくりを体験してもらおうと産業資料館西側に塩田を復元し、実際に当時主流であった人浜式の塩づくりの体験ができる。

その一方、町役場の南の旧



歴史を感じさせる「古街の家」

このエリアを中心に、約90軒の民家や商店などにひな人形



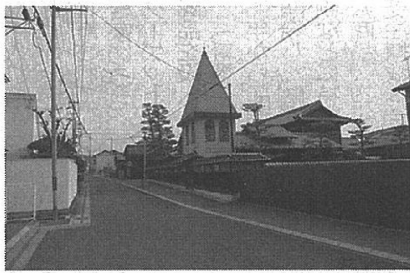
3月に開業する「四国水族館」

数約400種、1万4000点となる「四国水族館」の開業が予定されている。この水族館は、四国水景をテーマにしており、また、時間帯や季節により変化する空間演出を取り入れた「次世代型水族館」を目指している。

### 生まれ変わった「塩の町」

## 再開発と歴史・文化が融合

と呼ばれるようになり、塩田跡地とは思えない新しい景観



古街にある「倉の館三角邸」

丸亀街道が通る一帯の既成市街地は塩で栄えるよりはるか昔「津」と呼ばれる自然港があり、交易拠点として政治・経済・文化の中心だった。この古街と呼ばれるエリアには入り組んだ路地、寺のまちとして栄えたことが分かる神社が1社、寺が9つあり、情緒豊かな古き良き町家、街並みを見ることが出来る。また、古街エリアには、「倉の館三角邸」「古街の家」等の歴史や文化を感じさせる建物が数多く建ち並んでいる。更に、

が飾られる「うたつの町家とおひなさん」という行事が、今年2月29日、3月1日に行われる。

このように、塩づくりの街から、再開発により新宇多津都市という新しい街に生まれ変わる一方で、その周辺には古くからの寺町、港町の面影を残す街が共存している。

### 四国最大級の水族館

令和2年3月には「うたつ臨海公園」に民間による四国最大級（地上2階建て）、展示

このように、今後街を活性化させるであろう水族館の開業や再開発で形成された新宇多津都市等の新たな風景は、その根幹となった「塩の町」という宇多津町の歴史と、古街といった街並み等の伝統により成り立っている。こうした文化こそ残してほしい風景である。その新旧の風景の融合が、今後の宇多津町のイメージをより上げていくのではないだろうか。

（高松支所／不動産鑑定士・富永和志）